

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2018」の開催について

1. 主 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、長崎大学福島未来創造支援研究センター、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク、福島大学、農研機構（全て予定）
3. 日 時：平成30年12月21日（金）：13：00～17：00
4. 場 所：日本学術会議 講堂
5. 分科会等の開催：開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災によって引き起こされた東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらした。この事故からすでに7年が経過したものの復興への道のりはまだ厳しいものがある。福島県産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主操業などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していないが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱いている。そこで本フォーラムでは、6年間の活動を振り返りながら、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関する課題を議論し、福島県農林水産業復興の加速に資することを目指す。
7. 次 第：
 - 13:00 開会の挨拶：
澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）
 - 13:10 本フォーラム6年間の記録と課題：
渡部 終五（日本学術会議連携会員、北里大学海洋生命科学部特任教授）
中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
 - 13:50 環境放射能レベルと健康影響調査について：
福島の農業環境における放射性セシウムと作物摂取による内部被ばく線量
塚田 祥文（福島大学教授、環境放射能研究所長）
県民健康調査事業の現状と課題
神谷 研二（福島県立医科大学教授、放射線医学県民健康センター長）

- 14:30 水産業復興の取り組みとリスクコミュニケーションについて：
福島県における漁業復興の現状と課題
柳内 孝之（福島県漁業協同組合連合会理事）
水産物の安全に関する現状と課題
関谷 直也（東京大学大学院情報学環総合防災情報研究センター教授）
- 15:10 農業復興の取り組みについて：
農業復興を支える技術開発の現状と課題
梅村 恭子（日本学術会議連携会員、農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長）
檜葉町における農業復興の現状と課題
山内 健一（檜葉町役場産業振興課兼農業委員会事務局 課長補佐）
- 15:40-16:10 休憩 および 関連研究成果の展示
- 16:10 総合討論
中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教授）
塚田 祥文（福島大学教授、環境放射能研究所長）
神谷 研二（福島県立医科大学教授、放射線医学県民健康センター長）
梅村 恭子（日本学術会議連携会員、農業・食品産業技術総合研究機構畜産研究部門草地利用研究領域放牧家畜ユニット長）
山内 健一（檜葉町役場産業振興課農業復興係長兼農政係長）
柳内 孝之（福島県漁業協同組合連合会理事）
- 16:50 閉会の挨拶：
眞鍋 昇（日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐・人間科学部教授）

9. 関係部の承認の有無：第二部承認（←事務局対応します）

（下線の講演者等は、分科会委員）